2021年度
京のまちなか
「龍池学区」活動報告

2021年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が長引き、たついけまちつくり活動は実施できなかった。

一方、大原学舎の活用については、2020年龍池教育財団や京都市大原学院校とのご縁がきっかけとなって、先の提案（昨年のパワポ参照）をもとに以下の活動を実施した。

いずれもグローバル観光学科の学生によるもので、以下の活動を実施した。

１．わくわくする畑プロジェクト

２．ヨゾラガッキュウ活動

１．わくわくする畑プロジェクト

GT南ゼミ3年生の藤松桃葉さんが提案し、龍池まちつくり委員会、大原学区自治連のみなさまのご協力のもと活動を開始した大原学舎グラウンド一角にあった畑を再生するプロジェクトである。そのきっかけの一つは、龍池まちつくり委員会で私たちがメインで取り組んできた「薬まつり」復活に向けて大原学舎で薬草を育てるという企画と、大原学区自治連会長の田家正雄さまからご紹介いただいた近隣の岸下さんの畑を見学させていただいたことによる。とくに岸下さんの畑は、多種多様の野菜や果物が小規模（整えられた道、ミニビニールハウス、野菜の花畑などなど）にかつ美しくにレイアウトされていた。思わず藤松さんと「わくわくするねえ」ということから、大原学舎での「わくわくする畑づくり」プロジェクトの方向が決まった。

4月以降、藤松さんを中心に放棄されていた畑のゾーニング（春夏秋冬の畑）をもとに、まず夏野菜用の畑づくりを開始、以降近隣で大原の地元料理の一人者でもある砂山さんのご指導を得ながら、秋野菜、大原名物紫蘇（紫蘇ジュースになりました）、冬野菜（大根と白菜は大学で配布）を作ってきた。そして、今は春を目指してイチゴなどが植えられています。

わくわくする畑プロジェクト　2021年度活動まとめ

２．ヨゾラガッキュウ活動

GT野﨑先生ゼミ4年生5名の卒業研究として計画、提案、実施されたプログラムである。龍池学区と大原学区のこどもたちの交流をテーマに、夏休みの宿題をかねて大原学舎で「夏の夜空に拡がる天体」を学ぼうという企画である。

夏休み実施にむけてメンバーは学舎での準備を進めるとともに、大原学院校では校長先生、教頭先生に龍池教育財団の寺村理事長や大原学舎担当の長谷川さんを交えた2回のプレゼンを経て実施計画を整えた。しかし、予定していた8月は新型コロナウイルス感染拡大による非常事態宣言期間と重なり、延期せざるを得なかった。その後もたびたび変更を繰り返し10月にようやく実施できた。残念ながら龍池学区のこどもたちが参加することはできなかったが、限られた状況のなかで実施された活動であったにも関わらず大変好評であった。

これらは、ここに至るヨゾラガッキュウチームの努力の結果であり、大原学舎での活動を行うについて、龍池学区から要望のあった「教育施設としてふさわしい活動」であること、「龍池学区と大原学区の交流」につながる活動になった。あらためメンバーに感謝の意を表したい。

2021ヨゾラガッキュウ実施報告書

２．ヨゾラガッキュウ活動

［概要］

日時:2021年10月16日(土)・17日(日)

場所:大原郊外学舎

主催者:ヨゾラガッキュウ運営チーム

ターゲット:大原学区と龍池学区の保護者と子供たち

［参加者数］

16日:京都大原学院11名

17日:京都大原学院4名

［内容］

アイスブレイク(自己紹介と爆弾ゲーム)

第一部:工作(星座早見盤)

第二部:星座に関する授業(位置関係と神話)

プラネタリウム鑑賞(天候不良のため)